かごしま教育ＮＯＷ

本県初の日本遺産！「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」

文化財課

本県初の日本遺産決定

５月20日，東京国立博物館で，令和元年度に日本遺産に認定された16件のストーリーが文化庁長官により発表され，文部科学副大臣から申請者の代表に日本遺産認定証が授与されました。

16件の中には，本県が関係９市（鹿児島市，出水市，垂水市，薩摩川内市，いちき串木野市，南さつま市，志布志市，南九州市，姶良市）と連携して申請した「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」も含まれ，悲願であった本県初の日本遺産となりました。

【認定証授与式の様子】

日本遺産とは

日本遺産とは，文化庁が観光庁と連携して平成27年度から取り組んでいる事業です。令和２年度に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは，特に海外から多くの観光客が日本を訪れることが予想されています。政府は，それらの観光客に，大都市圏だけでなく地方にも訪れてもらうため，それぞれの地域にある日本独特の歴史や文化をストーリーにまとめ，日本遺産として認定し，情報発信などの取組を後押ししています。日本遺産は，平成27年度から認定が始まり，令和２年までの６年間に，約100件の認定を目標としており，これまで83件が認定されています。

薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～

江戸時代，薩摩藩は，藩主の居城である鶴丸城を中心に，藩内の約120か所に外城と呼ばれる拠点を置く「外城（とじょう）制度」という独特の統治体制を築いており，外城の中心には麓と呼ばれる武家屋敷群が存在していました。

麓は，防御に適した場所に作られ，門と玄関の間に生垣を配置する等，まるで城のような構造を持っており，そこでは武士達が心身を鍛え，農耕に従事し，平和な世にありながら武芸の鍛錬に励んでいました。

今回認定されたのは，外城制度の中心となる鶴丸城跡と県内の代表的な11か所の麓にまつわるストーリーとそれに関連する95の文化財です。

11か所の麓には，国の文化財にも選定され，広く知られている知覧麓武家屋敷群，出水麓武家屋敷群，入来麓武家屋敷群をはじめ，加世田麓，里麓，手打麓，喜入旧（もと）麓，串木野麓，蒲生麓，志布志麓，垂水麓が含まれます。

その他，江戸時代から現在まで伝えられた武士ならではの勇壮な踊りである士踊（さむらいおどり）や下級武士の内職として伝承されてきた人形づくりや紙すき，鍛冶，また，だれやめとして食されたつけあげや焼酎など，様々な伝統芸能，技術，食文化なども含まれています。

本県では，今後，関係９市と連携し，来年度御楼門が復元される鶴丸城をはじめ，これらの麓群を活かした周遊ルートづくりや，各麓の魅力の情報発信などを通じて，鹿児島独特の麓を素材に，誘客促進や地域活性化を図っていきたいと考えています。

是非多くの皆さんに県内各地の武家屋敷群を訪れ，往事をしのばせる美しい石垣，武家門，見事な庭園を備えた屋敷などをご覧いただくとともに，歴史ロマンを体感していただきたいと思います。

【加世田麓の武家門】